

令和 6 年度 第 2 回秋葉区支え合いのしくみづくり会議 まとめ

【日 時】 令和 7 年 3 月 1 2 日（水） 10：00～11：30

【会 場】 新津地域交流センター 2 階 2 0 3 ・ 2 0 4 研修室

【出席者】

米田構成員、郷構成員、南波構成員、重松構成員、鶴木構成員代理、渡部構成員代理、野村構成員、佐々木構成員、阿部構成員、南場構成員、羽生構成員、今井行政担当
稲垣事務局長、小林 SC、加藤 SC

1

第 2 層支え合いのしくみづくり会議報告について

ご意見

- ・ 1 層と 2 層の違いはなにか。

→秋葉区の支え合いのしくみづくりの協議体について説明。

この場は第 1 層として、秋葉区全域での地域課題や取り組みについてご意見を出し
合い、構成員間でその取り組みや課題を共有し、それぞれが所属する団体等で活動
に結びつけ、地域の支え合い活動につなげていく。

また、第 2 層は包括（中学校）圏域における課題等に取り組んでいる。

2

今年度のふり返りについて

ふり返り

- ・ 高齢社会となり、地域の関わりが重要になってきている。
- ・ サロンでは非常食体験を通じた交流を実施した。（秋葉 1 丁目）
- ・ 今の学生は福祉の実感が湧かない。ボランティアの参加をしてもらい啓蒙している
が、地域福祉を自分事として取り組めていない。
- ・ 多世代の関わりを目指し、小須戸地区では若い年代に向けたサロンを考えている。
- ・ 行政、社協、地域のそれぞれの得手不得手を活かしていく必要がある。
- ・ 歳末見守り事業を中学生ボランティアと実施しているが、地域にも喜ばれ、継続して
いきたい。
- ・ 研修会の中で社会参加支援の話があったが、老人ホーム等でも引き受けが広まってい
る。障がい施設でも受け入れを検討できるかもしれない。
- ・ 身寄りなしの課題は情報発信が難しい。学習会等で浸透させていく必要がある。
- ・ 医療介護連携ステーションでは認知症や ACP について中心に検討してきた。

→むすびあい手帳や緊急情報キットを活用し、意思決定の支援を考えていきたい。

- ・ 本人が家族に悩みを言えずに相談に来るケースが増えている。(包括)

- ・ 周囲に頼りたくなく、本人が見守りを拒否することがある。

→地域や家族ではなく、自身で解決できるような社会資源が必要と感じる。

- ・ 家族に迷惑をかけたくないという方がおり、時代に合わせて考えていかなければいけない。

- ・ 認知症サポーター養成講座の参加を経て、子ども世代への認知症の理解を更に進める必要があると感じた。

3

令和7年度の取り組みについて

- ・ 今年度の取り組みを引き続き継続していく。

- ・ 老人クラブで交通安全を啓発していく。

- ・ 福祉施設として地域貢献活動を考えていく。

- ・ 子ども世代を含めた多世代へ、認知症の理解を進めていく。

- ・ 関係機関の連携は継続しながら地域福祉活動に取り組んでいく。

- ・ 支え合いのしくみづくり会議で繰り返し情報共有を行うことが大事。

→情報交換・発信を継続する。

→令和7年度は「認知症の理解の推進」、「地域と社会福祉法人等の連携の推進」を継続して取り組んでいく。